

教育にこそ  
伝わるコミュニケーションを

イメージをつくる・伝える

勉強は好きですか？  
嫌いですか？

私は嫌いでした。特に数学。融通の利かない正確な世界はどうにも息苦しく、興味がわきませんでした。ところが、「誰でもピカソ」というTV番組で、数学の不思議を紹介していたのを観て考えが変わりました。何がどうなのかというと

1+1+1+1+1+…∥無限  
1+2+3+4+…∥無限

はそれぞれ違う∞(無限)だ、ということ。数字は単なる無機質な数ではなく、それぞれに個性があり、その数式と理論にもまた個性がある。つまり、数字にキャラクターを感じ、それがとてもクリエイティブに感じられたのです。

それをあるデザイナーに話

したら「それは面白いね」となって、「数式ってセクシーらしいよ」とか「美学があるって言うじゃない」とか、それまで否定的だった数学に興味を持ち始めたわけです。

「イメージできる」  
共感理解を促す

数学嫌いな人達が、なぜ数学に興味を持ち、話題が盛り上がったのか。それは自分の中に新たな「イメージ」ができたから。また、同じイメージを共有できたからに他なりません。

単純に数式を勉強しただけでは、数学にクリエイティブなイメージは持ちません。そこには「イメージをつくり・伝える」コミュニケーションをデザインする必要があるのです。

私たちのデザインという仕事は、まさにこの「共感するイメージ」をつくること。

教育にこそデザイン

今、茨城大学において大学院の教育改革が進められています。茨城大学は東京大学や京都大学等と「サステイナビリティ学連携研究機構(IRS)」を

設立。国際社会が抱える課題を解決し、地球社会を持続可能な(サステイナブル)ものへと導く、その基礎となる新しい学術研究を始めました。それに連動して、教員を養成する教育学研究科では、サステイナブルな視点と地域資源をモチーフに教育カリキュラムを構築できる、新しい教員養成プログラムが始まりました。

これを読んで「イメージ」できましたか？ちょっと難しいかもしれませんがね。学生にとっては尚のこと。このような分野にこそ、デザインが必要なのだと思います。

教育とは、何かを人に伝えること。「難しいこと」、「新しく分りにくいこと」を共感、理解できるように、「コミュニケーションを円滑にするデザイン」をつくる。それも私たちの大切な仕事です。



茨城大学大学院教育学研究科の教育改革プログラムのプログラム報告誌、シンポジウムのポスター、リーフレットなどを制作しました。

農業生産法人の新たな試み

## パプリカの生産者とホテルの総料理長が 手を組んだ“パプリカペースト”

パプリカを大規模に生産する国内でも数少ない農業生産法人(株) Tedyが開発したパプリカのペースト。そのペーストを利用して、水戸京成ホテルの総料理長を務める二木氏がレシピを開発しました。そのペーストの利点を活かし、料理に彩りを加えるパプリカペーストのプロモーション用に、弊社でパンフレットを企画・デザインしました。全国のシェフへ美味しく綺麗なお届けをします。

